

『これからの環境分析化学入門』 第1刷正誤表

この度は、標記書籍をお買い求めいただき誠にありがとうございました。
標記書籍に誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。

【第1刷】

ページ数	行数	位置	誤	正
011	4行目	2.1節	ただ、大気成分の80% (質量比)	ただし、大気成分の80% (質量比)
012	下から8行目	2.3.2項	また、室内環境の空気質の把握にも <u>しばしば</u> 用いられる。	また、室内環境の空気質の把握にも用いられる。
017	16行目	2.5節	水蒸気やCO ₂ には <u>ほぼ</u> 吸収つくされており、	水蒸気やCO ₂ によって <u>ほぼ完全に</u> 吸収されており、
017	下から2行目以降	2.5節	サーモバイル型 (熱電対を直列に数百個配置したもの) や焦電型の赤外線センサを用いたり、コンデンサーマイクロフォンを用いたりする、ユニークな光吸収測定といってよい。	サーモバイル型 (熱電対を直列に数百個配置したもの) または焦電型の赤外線センサや、コンデンサーマイクロフォンが <u>用いられ</u> 、ユニークな光吸収測定法である。
020	3行目	2.6節	酸性ガスは塩酸HCl	酸性ガスは <u>塩化水素</u> HCl
020	11行目	2.6節	その発生は沈静化している。近年は、	その発生は沈静化している。 <u>しかし</u> 近年は、
027	9行目	2.7.1項	地表に届くのを防止しており、	<u>地上</u> に届くのを <u>妨</u> げており、
028	図 2.16			
032	8行目	2.8.2項	ヨウ化物は還元性持つので	ヨウ化物は還元性を持つので
034	下から7~8行目	2.9.3項	粒子の大小により二つに選別するものをインパクトと呼ぶ。	粒子の大小により二つに選別する装置にはインパクトやサイクロンと呼ばれるものがある。インパクトでは、
035	図 2.26			
168	17行目	Pick up	(例えば、塩酸HClのような極性をもった気体分子)	(例えば、 <u>塩化水素</u> HClのような極性をもった気体分子)
222	9行目	第3章 4 (2)	$1.24 \times 10^{-2} \sim 1.24 \times 10^1 \text{ mg L}^{-1}$ となる。	$1.24 \times 10^{-2} \text{ mg L}^{-1} \sim 1.24 \times 10 \text{ mg L}^{-1}$ となる。
226	24~28行目	第10章 7 (2)	$[\text{Fe}^{2+}][\text{S}^{2-}] \leq K_{\text{sp,PbS}} = 6.3 \times 10^{-18}$ とする必要がある。 $[\text{Fe}^{2+}] = 1.0 \times 10^{-2} \text{ mol L}^{-1}$ であるから、 $[\text{S}^{2-}] \leq K_{\text{sp,PbS}} / [\text{Fe}^{2+}] = 6.3 \times 10^{-16} \text{ mol L}^{-1}$ 中略 このとき、 $[\text{Fe}^{2+}][\text{S}^{2-}] = K_{\text{sp,PbS}}$	$[\text{Fe}^{2+}][\text{S}^{2-}] \leq K_{\text{sp,FeS}} = 6.3 \times 10^{-18}$ とする必要がある。 $[\text{Fe}^{2+}] = 1.0 \times 10^{-2} \text{ mol L}^{-1}$ であるから、 $[\text{S}^{2-}] \leq K_{\text{sp,FeS}} / [\text{Fe}^{2+}] = 6.3 \times 10^{-16} \text{ mol L}^{-1}$ 中略 このとき、 $[\text{Fe}^{2+}][\text{S}^{2-}] = K_{\text{sp,FeS}}$